大学で学んだことを世の中の役に立てよう

法学部長
橋本（はしもと） 基弘（もとひろ）

人間というのはか弱いもので、自然の猛威の前になすすべもなく敗北してしまいます。地震や津波が何万人という人の生活や命、未来をも奪っていきました。東北関東大震災の報道に接するたび、私たちはあまりの惨状に言葉を失います。大きすぎる悲しみを前にすると悲しいという感情すら覚えなくなることもあります。悲しいという感情ではかかえきれないほど今回の災害は大きかったのです。今、日本国中が大きすぎる悲劇にうなだれているように思えます。

東北関東大震災は日本史の上で未曾有の大災害に他なりません。これを国家存亡の危機、国難と表現する人もいます。私たちは安全や安心のあり方についても問い直す必要に迫られています。それと同時に社会や連帯、人と人とのつながりについても考え直さなければならないでしょう。考えてみれば「国家」とは、一人ひとりの力では対処できない問題をなんとか解決しようとして編み出されたしくみという側面をもっています。このしくみがうまく作動するか、危機的な状況を前にして人々の生命や生活を十分守れるのかどうか、今回の震災はこのような問題を私たちに突きつけている気がしてなりません。危機管理そのものが国家の存在理由だからです。

新入生諸君の中にも被災した方もいるでしょう。あるいは親類や知人が罹災したという方もいるはずです。大学に進学することは晴れがましいことですが、手放しで喜べないのが新入生諸君共通の意識なのではないでしょうか。今後何年かは日本経済は一層停滞し、大震災の傷跡が癒えるには十数年を要するかも知れません。見えない未来の前に立ちすくむ者もいるでしょう。新入生諸君はきわめて困難な中央大学での学びを始めようとしています。

しかし、私たちは絶望していられない。被災者の人々と悲しみを共有しつつも新しい一歩を踏み出さなければならない。特に諸君は新しい日本を作るために立ち上がらなければならない。そのために大学での学びを実りあるものにしてほしいと思います。今さら noblesse oblige という古色蒼然たる言葉を持ち出すまでもないけれど、様々な義務から解放されて学ぶことだけに時間を費やせることの意味を噛みしめてもらいたい。「誰か」のあるいは「何か」の役に立つために学ぼう。大学で学んだことを世の中の役に立てよう。傷だらけになった日本を再建するために大学時代を送ってほしい。安全で安心できる日本社会を作るためには何が必要なのか。法や社会制度はどうあるべきなのか。しっかりと考えてほしいと思う。おそらく日本の明日を作るのは諸君でしかない。このことを胸に刻んで日々を送ってほしい。

入学おめでとうございます

経済学部長
関野（せきの） 満夫（みつお）

経済学部新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

みなさんが入学される直前の3月、私たち日本人は東北関東大震災という歴史的な大災害を経験しました。新入生のみなさんの中にもご自身、ご家族、知人、友人に被災された方があるかもしれません。また震災の影響で、この首都圏においても電力供給や公共交通の不安定な状況がしばらく続きそうです。

こうした中で新入生のみなさんには、新たな大学生活を始めるにあたって少なからず不安があるかもしれません。しかし、私は新入生のみなさんには、中央大学多摩キャンパスにおいて経済学を学ぶという今後の4年間への新たな希望と期待を、是非持ってほしいと思います。

これからみなさんが学ぶ中央大学経済学部では経済学および総合教養について体系的な授業カリキュラムを整えています。また、中央大学経済学部の教員はすべて、経済学ないし社会科学や外国語等の専門研究者であり、授業やゼミ活動を通じて学生のみなさんとの学問上の交流を楽しみにしています。言うまでもなく、大学での勉強は、自分なりの問題関心を持って主体的・積極的に取り組むことによって、さらに楽しくかつ有意義なものになります。

この緑豊かな多摩キャンパスにおいて、これからの4年間を是非有意義に過ごしてください。